

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071001376		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホームピアおざさ		
所在地	福岡市中央区小笹1-14-2		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果確定日	平成29年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成29年11月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ニーズに基づき、柔軟性と応用力のあるサービス提供に力を入れています。また、市街地の立地でありながら、広いベランダを活用して四季折々の野菜を作ったり、花を植えたりし、季節を感じていただいています。外気浴や外出の機会を持ち、刺激ある生活が送れるよう努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ピアおざさ」は、近隣をスーパーや公園などにも囲まれ外出を楽しめる住宅街の一角にある。3階建ての前面は一面ガラス張りフロアには明るい光が満ちており、1階は小規模多機能事業所、2、3階に2ユニットのグループホームがある。母体法人は福岡、長崎県を中心に介護福祉施設の事業を行っており、事業所は平成17年4月に開設された。毎日の生活の中でできる事や好きな事を見つけ、生きがいを持ち、自立した生活を行ってもらおうとしている。畑に種をまき、春菊を植えたり、利用者と一緒に収穫し食卓に並べる。それぞれ自分の役割を持ちできることを行ってもらっている。地域商店街とのつながりも深く、地域コンサートに参加、中学生の体験学習や、近隣の音楽教室のボランティアの訪問などがあり、地域とのつながりを大切にしている。今後も地域に開かれた事業所として、益々期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を掲示しており、共有・理解し、理念に基づいた支援が出来るよう努めている。	理念をフロアに掲示し、申し送り時に唱和し、意識を高め、実践に繋げるよう努めている。	事業所創立の時作った理念である。各フロアに掲示してあり、申し送りの時に唱和し、理念の共有に努めている。職員の名札の裏には「一緒にゆっくり笑って暮らそう」とのスローガンが書かれており、アットホームな雰囲気や大事に心がけている。理念に基づき個人の目標を立て、前年度の目標に對しどのようだったか管理者と話し合い、理念を共有し実践につなげるように努めている。	事業所創立の時作った理念であるとの事、年度末などに理念について話し合う機会を持つようにはしてみようだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員・入居者共に地域の店舗を利用している。また、行事があれば、積極的に参加し、交流している。	地域の行事に参加したり、中学生の職場体験を受け入れたりし、交流している。	地域のコンサートに参加、またこどものダンスなども楽しんだ。音楽教室のボランティアがクリスマスに訪問する。敬老会ではスタッフが催し物を行い、家族の参加もある。正月の餅つきは近隣の系列施設で一緒に行う。1階の小規模多機能事業所で民生委員の協力のもと、年1回小笹カフェの催しがある。商店街の懇親会に参加し情報を得たり、近隣スーパー、お茶屋さんなどに徒歩で行き近隣住人とのつながりも大切にしている。中学生の職場体験学習も年2回2日間行う。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と共に地域行事に参加したり、中学生の職場体験を受け入れることで認知症の方々への理解や支援の方法を地域に向けて発信している。	入居者と共に地域行事に参加したり、中学生の職場体験を受け入れることで認知症の方々への理解や支援の方法を地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で、状況報告や情報交換などを行い、その中で出た意見や要望を日々のサービスに活かしている。	入居者様への対応で、取り組んでいることなどを報告し、意見交換を行っている。	二か月に1回、併設小規模多機能事業所と合同で開催し、商店街会長、包括支援センター、近隣の小規模多機能事業所、特養の相談員などの出席があり、10月には市の職員3人の出席があった。状況報告や課題、取り組んでいる事、などの報告を行い、話し合い、意見や要望、情報などを提案してもらい日々のサービスに活かしている。	平日につき家族の参加がないとの事だが、家族の参加を促せるような何らかの方法を、包括支援センターなどに相談してみようだろうか。家族に会議の議事録を送付し、一筆添えたり、家族の意見を書き込んでもらおう等、工夫をしてみようだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内を出しており、参加頻度は低いですが、参加いただくこともある。参加いただけなかった運営推進会議の議事録を送付し、意見をいただくこともあり、協力関係を築いている。	運営推進会議の案内を出しており、参加頻度は低いですが、参加いただくこともある。参加いただけなかった運営推進会議の議事録を送付し、意見をいただくこともあり、協力関係を築いている。	運営推進会の案内、議事録は市に送付している。介護保険の更新手続きにはケアマネジャーが役所に訪問する。保護課との連絡は最初管理者が行い、その後ケアマネジャーが行っている。空き室状況などは包括支援センターより市のほうへ相談してもらった。最近、利用者への対応について、市よりアドバイスをいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の出入口のみ施錠しており、各階の玄関は開放している。身体拘束について、定期的に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。やむを得ず行う場合は、ご家族・職員で話し合い、同意を頂き、必要とする時間のみ実施する。	建物の出入口のみ施錠しており、各階の玄関は開放している。身体拘束について、定期的に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。やむを得ず行う場合は、ご家族・職員で話し合い、同意を頂き、必要とする時間のみ実施する。	建物の出入り口のみ施錠している。夜間ベッドから起き上がり歩こうとすることがあり、柵とセンサーマットを使用していたことはある。現在、出入り口は暗証番号式にしているが、2年前は暗証番号式ではなかったため、入居者が出られ、警察に保護されたことがあった。身体拘束の研修は年1回外部研修を行い内部研修で勉強会を実施している。	

H29.11自己・外部評価表(ピアおささ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、よく理解した上で虐待防止に努めている。日々の関わりの中で、異変に気づけばすぐに報告するようにしている。	勉強会を行い、よく理解した上で虐待防止に努めている。日々の関わりの中で、異変に気づけばすぐに報告するようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会がある。必要であれば活用できるよう支援している。	研修に参加し、学ぶ機会がある。必要であれば活用できるよう支援している。	成年後見人制度の利用は3名あり、管理者が研修を受け内部に落としている。家族から相談がある時、困っているようなときは声かけ、説明しパンフレットを渡している。社会福祉協議会より送付されてきた書類はエレベータにはってある。研修時に制度を使用している人は職員に周知しており、理解を深めている。	包括支援センターよりパンフレットを入手するなどして、事業所入口にパンフレットを置いてみたらどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な説明を行い、理解・納得をしてもらっており、また、今後のサービスに対する要望等を聞いて、ケアに活かしている。	契約の際は、十分な説明を行い、理解・納得をもらっている。疑問点があればその都度説明し、納得いただけるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族などからの意見や要望は、現場職員が聞き取った場合は、管理者に報告し、対応している。	ご家族などからの意見や要望は、現場職員が聞き取った場合は、管理者に報告し、対応している。	利用者の意向は日々の交わりの中で聞き取り、職員間で共有している。意見箱は3階に設置してある。家族会は行ってないが、敬老会、忘年会などに家族の参加があり又週2~3回、10日に1回は数人の家族が面会に来られ、想いや意向などを話してもらい、管理者を中心にみんなで話し合い運営に反映させるようにしている。	より多くの家族の意見を引き出せるように、記入しやすいアンケートなど考え、事業所に対する満足度などを聞き出すようにしたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に施設長も参加し、職員との意見交換や要望が聞ける場を設けている。	毎月の会議に施設長も参加し、職員との意見交換や要望が聞ける場を設けている。それ以外でも個人的に話を聞くこともある。	月1回ユニット別で会議があり常勤もパート職員も出席する。年1回の個別面談もあり、今年目標に対する反省及び来年度の抱負などを話す。行事や外出に関する意見や、備品の購入などの希望にも対応してくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場の様子を伝え、職員の要望の現実に努めている。また、職員の資格取得の支援も行っている。	管理者が現場の様子を伝え、職員の要望の現実に努めている。また、職員の資格取得の支援も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職場見学・面接をし、採用検討している。職員の能力を発揮できるような環境づくり・シフト調整を行い、一人ひとりの意見を尊重し、意欲的な職場になるよう、対応に努めている。	職場見学・面接をし、採用検討している。職員の能力を発揮できるような環境づくり・シフト調整を行い、一人ひとりの意見を尊重し、自身の力が発揮できるよう努めている。	20歳代から70歳代まで幅広い年代の職員がおり、男性職員は二人いる。休憩は1時間あり事務室で休める。休日出勤は残業として支給もされている。事業者からの研修は仕事の中で行け、自分で研修に行くときはシフトの調整をして、後押しをしてくれる。細かい作業が好きな人など、それぞれ得意な事を発揮している。	

H29.11自己・外部評価表(ピアおささ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会にて理解を深めている。また、資料の閲覧を行っている。	勉強会にて理解を深めている。常に入居者様への言葉遣いや対応のあり方を学んでいる。	年1回は、外部研修を行っており、資料を用い内部研修に落としている。平成30年2月には人権研修を予定している。講師派遣やDVDを見る機会もあった。言葉かけにも注意し「ちょっと待って」「だめよ」と言う言葉は使用しないように気をつけている。気が付いた時にはお互いに注意し合っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの知識、ケアの向上のため、機会があれば研修に参加してもらっている。研修後は、報告書を提出してもらい、勉強会で報告してもらっている。	内部研修では、その資料を担当者が自分で揃え発表してもらっている。外部研修は、調整が付けば参加してもらっているようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加していただいている他事業所と意見交換など交流を図り、その意見を参考にし、サービスの質の向上に努めている。避難訓練にも参加していただいている。	運営推進会議に参加していただいている他事業所と意見交換など交流を図り、その意見を参考にし、サービスの質の向上に努めている。避難訓練にも参加していただいている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば本人の施設見学・面談を行い、不安や要望を聞き、安心して入居できるよう努めている。また要望がある場合は、体験入居の期間を設けている。	可能であれば本人の施設見学・面談を行い、不安や要望を聞き、安心して入居できるよう努めている。また要望がある場合は、体験入居の期間を設けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の意向を尊重しながら、ご家族の不安・要望を聞き、どのように対応していくか話し合い、より良い関係が築けるよう努めている。	初期の家族とのコミュニケーションを重視し、連絡を密にとるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意見・要望を聞き、現在の状況を把握し、必要な支援を行っている。	固定観念にとらわれず、必要とするサービスを見極め、提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重しつつ、コミュニケーションを図り、役割を持って生活でき、共に支えあえる関係を築けるよう支援している。	本人の残存能力を引き出し、できることを伸ばし、共に過ごせるような関係づくりに努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、希だよりにて、行事や日々の様子を写真・手紙にて報告している。面会に来られた際は、話し合えるような環境づくりをしている。	職員だけでなく、ご家族にも協力を得ながら支えるように努めている。		

H29.11自己・外部評価表(ピアおざさ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などが面会に来られた際は、楽しく関わりが持てるよう、支援している。	可能な限り、ご家族と調整し、外出や外泊を取り入れている。ご家族の面会もたびたびあり、友人や教会の方もお見えになる。	以前通っていた教会の牧師さんが見えたり、芸事教室の生徒が訪ねてくる。住んでいた家の様子を見たい、娘のいる家に帰ってみたいとの希望があり、職員が送迎し、家族と一緒に団欒した。長年築いてきた馴染みの人間関係や社会地域との関りが途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でコミュニケーションをとっている場面も多い。他者とのコミュニケーションが困難な場合は職員が間に入り、楽しく関わりが持てるよう支援している。	リビングにそれぞれの自席があり、隣同士などで会話をするなど関わりを持っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族から問い合わせや相談があった場合はフォローし、支援に努めている。	契約終了後も、ご家族から問い合わせや相談があった場合はフォローし、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と会話することで、本人の思いを知り、ご家族を含めてより良い方向へ進めるよう支援している。	入居者様と会話することで、本人の思いを知り、ご家族を含めてより良い方向へ進めるよう支援している。	利用者、家族が自然に漏らした言葉や何気ない仕草から思いをくみ取るようにしている。担当者が中心となりアセスメントを取る。家族が面会に見えたときケア計画について話をし又家族への連絡を行う。遠方の方には電話で聞き取りを行い、後見人のいる方には書類を送付する。日々の様子は申し送りを行い、変更の必要のある時は本人の視点に立ち意見を出し合い、話し合う。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに目を通し、また、本人やご家族から聞きだすなどして経過の把握に努めている。	ご家族や入院先のソーシャルワーカー・ケアマネージャより情報を収集し、経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録を細かく記入することで、本人の小さな変化に気づけるようにしている。	入居者様にできる事をしていただきながら、日々生活している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能であればご家族にもカンファレンスに参加していただき、話し合いを行い、介護計画を作成している。	可能であればご家族にもカンファレンスに参加していただき、話し合いを行い、介護計画を作成している。	ケアプランの実施記録は一月ごとに行い、6か月に1回、出席できる職員すべてでモニタリング、カンファレンスを行い、計画作成担当者と話し合いケアマネージャーが介護計画を作成する。問題がある時はケア実施記録に×印を入れ理由を書き込み、ケアプランに反映させている。	医師より話があったときは更新時に計画に入れているとの事だが、医師、訪問マッサージなどの意見を担当者会議の議事録に書き込むようにするなど議事録を充実させてみたらどうだろうか。

H29.11自己・外部評価表(ピアおざさ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケア記録をなるべく細かく記入し、特記事項はホーム日誌にも記入し、情報共有している。見直しが必要な点についてはカンファレンスで話し合い、介護計画の見直しに繋げている。	ケア記録に一日の様子を時間ごとに詳細に記入し、共有しやすいよう工夫している。突起軸はホーム日誌にも記載している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの様子観察を行い、その時のニーズに合わせて柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。	入居者様やご家族のニーズに対応できるよう、ご家族の面会時などニーズの把握に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボールや新聞紙は入居者様と地域のリサイクルセンターに運んでいる。また、近隣のスーパーなどに一緒に行ったり、近隣の保育園の行事も参加している。	地域行事の案内を受け、参加をしたり、近隣の公園などに外出する機会を設けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から在宅診療に変更を希望される方には、いくつかの在宅診療事業所の情報をお伝えし、決めていただいている。入居前からのかかりつけ医に行く場合には、日々の状態を詳しく伝えている。	入居前のかかりつけ医から在宅診療に変更を希望される方には、いくつかの在宅診療事業所の情報をお伝えし、決めていただいている。入居前からのかかりつけ医に行く場合には、日々の状態を詳しく伝えている。	契約時に馴染みのかかりつけ医と在宅診療を選択してもらい、在宅診療に変更する場合は5在宅診療から選び病院と家族の間で契約をする。精神科、皮膚科、眼科は外部受診で家族がいけない時は職員が対応する。かかりつけ医受診時は日々の状態を詳しく伝えている。受診後はその日に家族に連絡し、職員間は申し送りノートに書き共有する。4件の在宅診療は24時間対応。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はいないが、必要時には併設事業所の看護師と連携を図っている。在宅診療事業所をかかりつけ医にしている方については変化があれば連絡し、指示を仰いでいる。	事業所内に看護師はいないが、必要時には併設事業所の看護師と連携を図っている。在宅診療事業所をかかりつけ医にしている方については変化があれば連絡し、指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、できるだけ早く退院できるよう病院のソーシャルワーカーと連携を取っている。	これまでの生活歴や既往歴など、必要な情報を個別にファイリングし、情報提供・交換が円滑にできるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、かかりつけ医も含め、話し合いの場を持ち、方針の共有と支援を行っている。可能な方は、重度化する前に話し合いの場を持ち、ご家族に余裕を持って考えていただく時間をつくるようにしている。	ご家族・主治医・事業所との話し合いのもと、方針の決定・共有をし、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した時は事業所として指針はある。過去に5人看取りを行った。家族、医師、事業所と話し合いのもとチームで支援に取り組んでいる。看取りについて利用者の気持ちも共有している。医師4人はいつでも対応はできる事を、家族には周知しており、安心と納得を得られるように支援に取り組んでいる。2年前は外部研修を受けた人が、内部研修を行ったが、最近外部研修には行っていない。	看取りの機会も多く、職員もターミナルケアに理解はあるようだが、最近研修に行かれていないとの事、機会があったら外部研修に行かれてみたらどうだろうか。

H29.11自己・外部評価表(ピアおざさ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に(約3年に1回)消防署で行われる救急救命講習に参加し、応急手当やADLの使用方法などを学んでいる。	定期的に(約3年に1回)消防署で行われる救急救命講習に参加し、応急手当やADLの使用方法などを学んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施しており、災害時には近隣の介護事業所や商店会、民生委員との協力体制を築いている。また、各フロアには災害時のマニュアルがあり、閲覧できるようにになっている。	年に2回、避難訓練を実施しており、災害時には近隣の介護事業所や商店会、民生委員との協力体制を築いている。また、各フロアには災害時のマニュアルがあり、閲覧できるようにになっている。	年2回避難訓練を行っている。1回は夜を想定し、消防職員の立ち会いがある。外階段が二か所にある。近隣事業所、民生委員が参加してくれる。何かがあった時は1階の小規模多機能事業所が避難所になっており、運営推進会議の時に伝えている。地域の防災訓練には参加していない。今後参加しようと思っている。非常災害時に備えては水、パン、缶詰、簡易トイレ、サランラップなどを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合った声かけや対応をしている。自尊心を傷つけないよう、声掛けについて話し合い、個人の人格を受け入れ、尊重し支援している。	毎月のミーティングで人権の尊重や、人格に配慮した声かけなど振り返っている。	接遇の勉強会は年1回内部で行なっており順番に職員が担当している。失敗があった時はさりげない声かけでトイレに誘導し、利用者の誇りを傷つけないようにしている。入浴を嫌がるときは、無理に勧めず別の日にするように話をする。契約時に個人情報使用同意書、個人写真使用同意書ももらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択肢がある場面があれば、本人がどうしたいかを尋ねるなど自己決定ができるよう支援・観察している。	入居者様が、希望を表出しやすいように何でも話せる雰囲気づくりを心がけている。言語障害がある方には、気長く、ゆっくり耳を傾けるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決めているが、自由な時間が多くあり、その中で本人のやりたいことをやっていただいている。食事の時間や入浴も本人の要望にあわせて調整している。	おおまかな一日の流れは決めているが、自由な時間が多くあり、その中で本人のやりたいことをやっていただいている。食事の時間や入浴も本人の要望にあわせて調整している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者をご自宅から持ってこられた道具を使い、整容したりされる。また、衣類も季節に合ったものを自由に着ていただいている。	好きな洋服などをご自分で選べる方には、選びやすい場所に置くなど配慮し、ご自分で選べない方には、清潔な身だしなみができるよう配慮している。散髪・ひげそり・眉そりなど定期的に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けなど、協力していただける部分は一緒にしている。食事中も出来る限り自力で召し上がっていただくようメニューの説明や声かけ・見守りを行っている。	みんなで食事を作る日を設け、入居者様に野菜を切っていただいたり、食器の準備などをしていただくこともある。日常的には、食器拭きやランチョンマット拭きなどをしていただいている。	日常的には2階は自分で引き膳、3階は茶碗を拭く。みんなで食事を作る日を設け「芋ご飯」「たこやき」「栗ぜんざい」などをつくったり、個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。おやつは近隣のスーパーと一緒に買い物に行く。誕生日は寿司などを取る。ユニットごとで全員で外食することもあり、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。	

H29.11自己・外部評価表(ピアおざさ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分摂取量の記入・共有を行っている。入居者様一人ひとりに合わせて食事形態や提供方法を変えたり、水分の内容を変えたりと栄養や水分摂取していただけるようにしている。	食事は外注しており、外注先の栄養士による栄養管理が行われている。水分補給もこまめにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後、必ず口腔ケアを行っている。入居者様一人ひとりの口腔状態に合わせて口腔ケアの方法を変え、清潔保持に努めている。ご自分で口腔ケアが出来る方には声かけし、ご自分でしていただいている。	状態に応じて、口腔内の清潔が維持できるよう口腔ケア介助を行っている。訪問歯科による歯科検診と口腔ケア(週1回)、義歯洗浄(毎日)を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行不安定な方には、トイレ内で手すりを使用して便器に移乗し、トイレで排泄できるよう支援している。必要な方には定期的な声かけ・誘導を行い、排泄チェック表を使用し、管理している。	排泄チェック表を使用し、個々に合わせたトイレ誘導間隔を把握し、できる限りトイレで排泄排尿できるよう支援している。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し排泄の支援に取り組んでいる。リハビリパンツとパッドを使用し、夜間にいつも失敗する人がいたが、漏れていることがわからないのか面倒くさいのか職員全員で話しあった。トイレにいきたい気持ちがあるが間に合わないことがわかり、夜間は居室にポータブルトイレを置いたところ、夜間はポータブルトイレで排尿するようになり布パンツに改善され排泄の自立に向けた支援ができた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の入居者様については、何日排便が無いか記録・共有し、かかりつけ医に相談している。必要に応じて座薬を用い、排便コントロールを行っている。	排泄チェック表を使用し、個々に応じた薬の処方をかかりつけ医に相談しながら支援している。牛乳や食物繊維が多い食べ物の提供・マッサージなど工夫をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	認知症軽度の入居者様には入浴予定日に声かけを行い、ご自身で入浴するかどうか決めてもらっている。認知症重度の方にはある程度入浴日を決めるが、体調や本人の意向があれば、変更の対応などを行っている。	入浴チェック表をもとに、入浴の声かけを行っている。湯温や時間帯など希望があれば伺い、可能な限り対応し、心地よい入浴ができるよう努めている。	入浴は週3回で昼から行われている。入浴チェック表により、入浴していない人から順番に決めてゆく。入浴を嫌がるときは日をかえて行なう。入浴時に全員の皮膚状態をチェックし、皮膚の弱い人もいて、風呂上りに軟膏を塗布している。香りのある入浴剤を使用したり、菖蒲湯にしたりと楽しんで入浴できるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりに合わせた時間で入床介助を行っている。眠れない方に対してはその都度対応を行い、安眠できない日が続くようであれば、かかりつけ医に相談することもある。	居室にある温湿計をもとに、エアコンや加湿器を使用しながら、快適に眠れる環境づくりをしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬の変更等があれば申し送りノートなどで必ず情報の共有を行っている。薬の内容にも目を通し、変更後に体調の変化があればかかりつけ医に連絡し、情報共有している。日付・名前・服薬時期・飲み込みの確認をしている。	入居者様の薬の変更等があれば申し送りノートなどで必ず情報の共有を行っている。薬の内容にも目を通し、変更後に体調の変化があればかかりつけ医に連絡し、情報共有している。日付・名前・服薬時期・飲み込みの確認をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者様の得意なことやできることを探し、していただいている。会話をしたり、本を読んだり、歌を歌ったり、レクリエーションをしたりと楽しみや気分転換を図っている。	出来ることや好きなことを知り、それが実践できるよう心がけている。		



H29.11自己・外部評価表(ピアおささ)確定

自己	外部	項目	自己評価(希)	自己評価(泉)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら外出(買い物)支援に努めている。季節に応じて外出の機会を設けたり、地域行事にも参加している。墓参りなど、ご家族にお連れいただくこともある。	ご自宅で過ごす時間を持つための支援を行うこともある。季節に応じた外出の機会を設け、ご家族にも声をかけ、一緒に参加いただけるよう案内している。	季節に応じ花見、秋は紅葉、初詣など外出の機会を作り各ユニットで車で行く。買い物などは個別に対応している。家族と一緒に墓参りをしたり、温泉に行ったり、自宅に行き食事をしたりと家族の協力も得て、生きがいのなるような支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が金銭管理をしていない。必要なものや欲しいものは事業所立替の下、購入するか、ご家族に購入していただく。事業所で購入する際には、一緒に買い物に行くこともある。	入居者が金銭管理をしていない。必要なものや欲しいものは事業所立替の下、購入するか、ご家族に購入していただく。事業所で購入する際には、一緒に買い物に行くこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で、希望に応じて電話をかけていただいている。一部の方は携帯電話を所持している。入居者宛の手紙が届くこともある。	入居者様宛てに電話がかかってきた時は、本人に代わっていただき、自由にやりとりしていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節に合った飾りをしたり、入居者様の写真を飾ったりし、明るい雰囲気になるよう心がけている。	室内の清掃は毎日行っており、気持ちよく生活できるよう心がけ、日光などはカーテンで調整し、ベランダには季節の花を植え、玄関先には緑を絶やさぬよう心がけている。	ちぎり絵でハロウィンの飾りつけがされ、壁には利用者が描いた絵がはられ、利用者の笑顔の写真は職員のアイデアでオシャレに飾られている。トイレには赤ちゃんの写真があり、利用者の気持ちが和らぐように配慮されている。天井は4か所の明り取りがあり、室内は明るい光に満ち溢れ、広いベランダには桜、紅葉などが植えられ、野菜も育てており、四季が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った入居者様同士が座ってテレビを観たり、ソファでくつろいだりする空間がある。	共用部分にソファなどを置き、一人でも、複数でも過ごせるよう心がけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族・職員で話し合いながら、今まで使用していた家具や思い出のものなどをもってきていただき、居心地の良い居室になるよう配慮している。	居室には、本人馴染みの家具を持ってきていただき、居心地よく過ごしていただいている。ご自分で作成されたカレンダーなども貼っている。	居室にベッド、タンス、クーラーが備えている。米寿の表彰状やその人に併せた感謝状が掲示されるほか、家族の写真なども飾られ、本人馴染みの家具などを持ってきて、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないよう、不要なものは取り除き、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。	危険のないよう、不要なものは取り除き、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		